

令和5年度

事業報告書

社会福祉法人 みその福社会

特別養護老人ホーム ケアタウン成増

デイサービスセンター ケアタウン成増

ヘルパーステーション ケアタウン成増

居宅介護支援事業所 ケアタウン成増

成増地域包括支援センター

目 次

1. 社会福祉法人みその福祉会			
(1) 事業内容	1		
(2) 法人経営理念	1		
(3) 法人運営理念	1		
(4) 職員構成	2		
(5) 実習生・研修生受入状況	2	～	3
(6) ボランティア受入状況	3	～	4
(7) 防災訓練等の状況	4		
(8) ワーキングチーム	5		
(9) 法人研修・勉強会	5	～	6
2. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）			
(1) 令和5年度を振り返り	6		
(2) 入居者の状況	6	～	7
(3) 行事の実施報告	7	～	8
(4) 食事行事の活動報告	8	～	9
(5) その他の活動報告	9	～	10
(6) 特養各委員会の活動報告	10		
(7) 特養クラブの活動報告	10	～	11
(8) ケアカンファレンスの実施状況報告	11		
(9) フロア会議実施報告	11		
3. 短期入所生活介護（ショートステイ）			
(1) 令和5年度を振り返り	11	～	12
(2) ショートステイの居室配置	12		
4. 通所介護（デイサービス）			
(1) 令和5年度を振り返り	12	～	13
(2) 利用者状況 実績	13	～	15
5. 訪問介護（ホームヘルプ）			
(1) 令和5年度を振り返り	15	～	16
(2) ヘルパーステーション活動状況	16		
(3) 月別ヘルパー活動状況	16		
(4) 要介護度別活動状況内訳（利用者数）	16		
(5) 活動内容内訳	17		
(6) 部内研修	17		

6. 居宅介護支援事業

- (1) 令和5年度を振り返り 17
- (2) 事業計画実施状況 17 ~ 19

7. 地域包括支援センター

- (1) 令和5年度を振り返り 19 ~ 20
- (2) 相談件数実績 20
- (3) 総合相談 20
- (4) 虐待相談 20
- (5) 板橋区苦情・相談事業 20 ~ 21
- (6) 介護予防・日常生活支援総合事業ほか 21
- (7) ケアマネジメント支援 21
- (8) 地区ネットワーク会議 21 ~ 22
- (9) 板橋区相談協力員連絡会・民生児童委員連携 22
- (10) サービス事業者交流会 22
- (11) 板橋区小地域ケア会議 22
- (12) 認知症の方・家族支援 22
- (13) 認知症早期発見 22 ~ 23
- (14) 認知症の知識の普及 23
- (15) 医療・介護連携会議 23
- (16) 成増助け合い・支え合いの地域づくり会議 23 ~ 25
- (17) 支援センターだより 25

1. 社会福祉法人みその福祉会

(1) 事業内容

①介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

常時介護が必要（介護3～介護5）で、ご家庭での生活が困難な方が長期入所されます。

入浴、排泄、食事等の介護や日常生活上のお世話及び日常生活における機能訓練を行います。

②短期入所生活介護（ショートステイ） *介護予防を含む

特別養護老人ホームに短期入所し、入浴、排泄、食事等の介護や日常生活上のお世話及び日常生活における機能訓練を行います。

③通所介護（デイサービス） *介護予防・第1号通所事業を含む

老人デイサービスセンターに通って、施設において入浴、食事の提供等日常生活上のお世話及び日常生活における機能訓練を行います。

④訪問介護（ホームヘルプ） *介護予防・第1号訪問事業を含む

ホームヘルパーが居宅を訪問して、入浴、排泄、食事等の介護や日常生活上のお世話をします。

⑤居宅介護支援事業

介護の知識を幅広くもった介護支援専門員（ケアマネージャー）が、ご利用者の心身の状況や希望をうかがい、要介護度に応じた適切な居宅サービス計画（ケアプラン）を作成します。

⑥地域包括支援センター

地域の高齢者の心身の健康の維持、保健・福祉・医療の向上、生活の安定のために必要な援助、支援を包括的に行います。

(2) 法人経営理念

- 経営資源を最有効活用し、確固たる経営基盤を確立します。
- 健全な経営を目指し、事業経営の透明性を確保します。

(3) 法人運営理念

- 利用者様の尊厳のある生活を支援します。
- 利用者様本位のサービスを提供します。
- 利用者様に家庭的でゆとりのあるサービスを利用して頂きます。
- 利用者様一人ひとりに合った質の高いサービスを提供します。
- 常に地域に開かれ、地域福祉の中心的存在であります。

(4) 職員構成

(令和6年3月31日現在)

	特別養護老人ホーム	短期入所生活介護	通所介護	訪問介護	居宅介護支援事業	地域包括支援センター
管理者	1		(1)	(1)	(1)	(1)
配置医師	1(非)					
地域包括職員						8 1(非)
介護支援専門員					5	
生活相談員	4		2			
サービス提供責任者				3 2(非)		
介護職員	28 9(非)		6 10(非)			
ホームヘルパー				27(非)		
看護職員	4		2(非)			
管理栄養士	1		(1)			
機能訓練指導員	1(非)		1			
運転手			8(非)			
事務員	4 1(非)					

*1 (非)は非常勤職員

*2 ()内は兼務職員数

(5) 実習生・研修生受入状況

①介護福祉士養成課程

淑徳大学短期大学部	5月 (3日間) …デイ (1名)
	6月 (3日間) …デイ (1名)
	7月 (1日間) …特養 (2名)
	8月 (22日間) …特養 (2名)

都立赤羽北桜高等学校	9月 (10日間) …特養 (1名)
------------	--------------------

②地域看護学実習

成増高等看護学校	5月～9月（2日間）…デイ（18名）
	〃（1日間）…特養（19名）
	〃（3日間）…包括（8名）
	〃（2日間）…包括（2名）

③インターンシップ

埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校	8月（5日間）…特養（1名）
------------------	----------------

④職場体験学習

赤塚第二中学校	9月（2日間）…デイ（3名）
赤塚第三中学校	1月（3日間）…デイ（3名）

⑤ソーシャルワーク実習

東京都ケアマネ研修生	2月（3日間）…包括（1名）
東京藝術大学	3月（5日間）…包括（1名）

(6) ボランティア受入状況

令和5年度上半期は新型コロナウイルスの感染症予防対策を継続し、ご利用者と直接接しない内容の洗濯物仕分けやオンライン傾聴を中心にボランティアの受入れを実施しました。下半期は歌唱・楽器演奏・クラブ活動をはじめ、銭太鼓披露や朗読の会など、デイサービスを中心にイベント的な活動の受け入れも再開しました。日常のお手伝いといった内容への応募も徐々に増加しており、随時受入を開始しました。令和6年度はアフターコロナとして、多岐にわたるボランティアの皆様を受入することが出来る環境をつくり、ご利用者満足度の向上を図りたいと思います。

①ボランティア受け入れ総数（延べ人数）【全体】

特別養護老人ホーム	487名
デイサービスセンター	126名
納涼会	実績なし
たんぼぼ弁当	24名
合計	613名

②ボランティア活動内容内訳【特別養護老人ホーム】

傾聴ボランティア（オンライン）	143名
傾聴ボランティア（電話）	実績なし
喫茶ボランティア	実績なし
洗濯物仕分け	297名
日常生活お手伝い	47名
クラブ活動ボランティア	実績なし
イベント等ボランティア	実績なし

合 計	487 名
-----	-------

③ボランティア活動内容内訳 【デイサービスセンター】

日常生活のお手伝い	3 名
生花	実績なし
クラブ活動ボランティア	71 名
オンラインイベント	12 名
イベント等ボランティア	40 名
合 計	126 名

(7) 防災訓練等の状況

令和5年度は、コロナ禍で実施できなかった「災害時協定四者による合同訓練」をオーネスト成増にて開催しました。町会の皆様と当施設から会場であるオーネスト成増までの車椅子を使用した搬送訓練を行い、現地では消火訓練、煙体験ハウス、起震車体験や心肺蘇生法（AED）の訓練を志村消防署員の指導の下、実施する事ができました。4年ぶりの開催となりましたが合同訓練を通じて、町会の方々、近隣施設との協力体制を更に強化する事ができました。

また、在宅サービス部門は近隣施設との「成増地区BCPミーティング」を初めて開催し、連携体制の構築を図りました。BCPの対策強化に向け、次年度も定期的にミーティングを開催し、情報交換を行う事で有事の際の協力体制をより具体化していきたいと考えています。

志村消防署主催の「令和5年度2号消火栓操法効果確認会」は残念ながら中止となったため、代替えとして開催された「自衛消防スキルアップ講習会」に消防委員を中心に参加しました。災害時の初期動作を身に付けるとともに各職員の災害意識の向上にも繋がりました。

また例年同様に毎年2回実施している法人全体の避難訓練では、主に夜間時大規模震災を想定し、新人職員を中心に人員の少ない夜間帯でも慌てることのないよう、災害時の初期動作をしっかりと身に付けるための訓練を特養職員・当直者を中心に実施しました。併せて実施した初期消火訓練においても、職員に分かり易くする周知するために動画を作成し「火災の怖さ・初期対応の注意点・2号消火栓の正しい使用法」等を学習する機会も設けました。

新入職員に対してはオリエンテーション時に消防委員会が作成した災害時の動画マニュアルの視聴と防火設備・AEDの使用方法や設置箇所の説明を随時行いました。また、非常用発電設備についても定期的な始動運転や非常用のコンセントの確認、年一回の法定試験を行い、いつ災害が発生しても使用できる状態を維持しています。

令和5年度はBCP関連の研修に積極的に参加し、職員の災害対策知識の向上を図り、当法人全体としてのBCPを新たに策定いたしました。

令和6年度はBCPを基に、災害時に適切な対応ができるよう訓練を実施し、法人全体の防災対策強化を図ります。災害発生時において職員一人ひとりが、施設内の課題だけでなく周辺地域の課題に対しても迅速に対応できるように地域との情報交換・情報共有をより意識し強化することで、災害時における社会福祉法人としての役割を果たしていきたいと思っております。

(8) ワーキングチーム

令和5年度もリーダー層・中堅職員・新人職員をバランス良く選出し、部署を越えた合同のワーキングチームにて法人の重点課題に取り組みました。

① 職員育成・研修強化チーム

- ・動画やZOOMを活用した毎月の研修開催
- ・中堅職員研修の実施
- ・動画を含む業務マニュアルの見直し

② 地域交流・広報強化チーム

- ・ブログやインスタグラム、広報誌等を活用した継続的な情報発信
- ・お弁当の無料配布（コロナ禍のため、こども食堂の開催中止）
- ・施設紹介動画の更新
- ・館内掲示板の有効活用

(9) 法人研修・勉強会

令和5年度も職員育成・研修強化ワーキングチームが運営主体となり、現場要望の多かったテーマや、外部講師による研修会等も取り入れ、毎月開催しました。

継続した研修・勉強会の開催及びより多くの職員へ展開すべく、ZOOMを活用した在宅での研修参加や、事前に研修動画を作成し期間内に個別視聴する研修手法等を、継続して実施しました。

① 法人勉強会

実施月	対象	内 容
4月	全職員	食事について
5月	全職員	感染症（食中毒）について
6月	介護職員	排泄介助・褥瘡予防について（外部講師）
7月	全職員	認知症・精神疾患について（外部講師）
8月	全職員	直接介助について
9月	全職員	中堅職員研修の報告発表
10月	全職員	感染症予防（嘔吐対応）について
11月	介護職員	事故・ヒヤリハットについて
12月	全職員	虐待・身体拘束について
1月	全職員	医学的基礎知識について
2月	全職員	成年後見制度について（外部講師）
3月	全職員	ブランディング活動実践報告・次年度目標について

②法人全体研修

実施月	担 当	内 容
5.10月	感染症予防委員会	※法人勉強会にて
8月	接遇向上委員会	接遇力向上研修
10月	衛生委員会	自転車安全運転研修会
11月	接遇向上委員会	利用者満足度について

2. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

（1）令和5年度を振り返り

令和5年度はご利用者の健康と生活の質の向上を図ることを目標に掲げ、まず職員からアンケート形式で意見を集め、お誕生日当日のケーキ提供をはじめ様々な企画を具現化させることができました。令和5年5月と12月にはクラスターが発生しましたが、その期間を除いては外食や季節を肌で感じられるような外出、施設内では移動動物園や水族館で良い刺激を受けることができました。敬老会では4年ぶりに賀寿者のご家族のみではありましたが、一緒にお祝いをすることができ、ご利用者の笑顔が多くみられた1年になりました。令和6年度は法人内の他のサービスと合同で楽しんでいただけるようなイベントが多くできるように前向きに取り組んでいきます。またサービスの質の維持向上を目指し、今後も適切な人材の確保、又ICTの活用等を行い、業務の効率化をすすめていきます。更に周りの方々のご支援とご協力をいただきながら、より良いサービスの提供に努めていきます。

（2）入居者の状況

①入居者数

定員：特別養護老人ホーム 80名

（併設ショートステイ 4名）

令和6年3月31日現在入居者 79名

②入居者の推移（月末の性別入居者数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	15	15	17	16	17	16	15	14	15	14	16	17
女	61	60	60	63	63	63	61	64	63	61	61	62
計	76	75	77	79	80	79	76	78	78	75	77	79

③平均入院者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均	1.6	6.9	4.6	4.1	4.8	4.2	4.2	5.3	5.1	1.4	1.7	2.7

④性別・年齢別入居者数（令和6年3月31日現在）

	65歳未満	65～69	70～74	75～79	80～89	90～99	100歳以上
男	0	0	1	2	11	3	0
女	0	0	3	1	23	35	0
計	0	0	4	3	34	38	0

⑤平均年齢（令和6年3月31日現在）

全体	男	女
88.9歳	86.5歳	89.6歳

⑥性別・階別・要介護度別入居者数（令和6年3月31日現在）

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均	階別平均
2階	男	0	0	1	5	2	4.12	3.77
	女	0	1	11	11	4	3.67	
3階	男	0	0	3	3	3	4.00	3.66
	女	2	3	7	19	4	3.57	
計		2	4	22	38	13	3.71	

⑦性別・認知症高齢者の日常生活自立度別入居者数（令和6年3月31日現在）

	自立	I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	合計
男	0	1	1	3	6	3	3	0	17
女	1	4	2	4	27	6	18	0	62
計	1	5	3	7	33	9	21	0	79

⑧特養・短期入所合計宿泊稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	98.4	90.8	95.2	99.0	98.7	98.3	96.6	96.7	98.0	99.2	98.8	98.7	97.4

(3) 行事の実施報告

令和5年度は新型コロナウイルス感染症の影響で外部との交流イベントは出来ませんでしたでしたが外出行事を再開し、施設内でも楽しめる新たなイベントを開催することが出来ました。施設内では四季を感じて頂けるような行事を企画し運営しています。

開催月	行事名	内 容
4月	お花見	2階のテラスにて満開の桜と写真撮影をしました。フロアごとに分かれて桜を見ながらお茶会をしました。
5月	端午の節句	入浴時に菖蒲を入れ菖蒲湯を行いました。 1階ロビーで兜の飾りと写真撮影をしました。
	夏野菜苗植え付け	2階テラスでトマトときゅうりを育てました。
	外出	光が丘のローズガーデンに出かけました。

6月	外出	新型コロナ対応後初の外出に出かけました。
7月	七夕飾り	笹飾りを作り、願いごとの短冊や飾りつけを行いました。笹の下で写真撮影をしました。
	夕涼み会	フロアごとに2日間開催しました。夕食は夏祭りメニューで焼きそばやチョコバナナを提供しました。すいか割を楽しみ美味しく召し上がって頂きました。
8月	納涼会	フロアごとに時間を分けて開催しました。金魚すくいと輪投げ、ヨーヨー釣りでお祭り気分を楽しんで頂きました。
9月	敬老会 家族会	賀寿者のご家族のみ対面式で、2階3階のフロアはオンラインで繋ぎお祝いをしました。おやつには記念の焼き印を入れたどら焼きを提供しました。
10月	移動動物園	出張ふれあい動物園に来て頂き、モルモットを抱っこしたり、ヤギに餌をあげたりと直接ふれあうことが出来ました。
11月	運動会	フロアごとに開催しました。赤と白のチームに分かれ大玉送りと玉入れで競い合い、良い汗を流しました。
12月	クリスマス会	サンタやトナカイのコスチュームを着た職員と写真撮影をし、とても素敵な笑顔を見せて下さいました。おやつにチョコレートケーキを提供しました。
1月	新年会	書初めや福笑い・百人一首・羽子板を楽しまれました。昔懐かしい遊びをし、ゆっくりお正月の気分を味わって頂きました。
	初詣	施設内に職員手作りの鳥居、賽銭箱を設置し本格的なケアタウン神社を作りました。1年の無事と平安を祈願しお参りをしました。
2月	豆まき	職員が鬼となりカラーボールにて、豆まきを行いました。ボールを手にするについつい熱が入り白熱した鬼退治となりました。
	移動水族館	葛西臨海水族園から来て頂きました。色鮮やかな魚や大型魚の標本を手にとって鑑賞しました。
3月	ひな祭り	1階ロビーで雛人形と写真撮影をしました。

(4) 食事行事の活動報告

令和5年度は様々なイベントが中止となる中で、食事の楽しみをご利用者に提供していけるよう出来る事を最大限行いました。毎月食事に関する様々な行事を企画し、皆様楽しまれたご様子でした。ご利用者のご意見の反映やメニュー改善、イベントについて検討し、タイムリーにメニューに反映ができるように、オンラインを活用し委託業者の献立作成担当者も参加メンバーに加え、月1回献立会議の開催を始めました。

生鮮買物	毎週ダイエーの移動販売にて注文を行っています。メニュー表を見て頂き、皆様召し上がりたい物をそれぞれ選んで頂きました。冬場は鍋物、夏場は生ものを控える代わりに冷たい麺類を選択できるなど、季節感にあったメニューを提供しました。
行事食	そば打ちの等デモンストレーションは感染予防の為実施出来ませんでした。季節の行事にちなんだ料理や特別食は毎月実施し様々な食の提供を行う事が出来ました。郷土料理は、デイサービスの温泉イベントとコラボして行いました。価格高騰のため、7月の土用の丑と正月の三が日は料理の質維持のため有料イベントとして、見栄え良く提供できました。
バイキング食	おやつバイキングは毎週日曜日に行っています。ご自身でおやつを選べるため、ご利用者も毎週楽しまれています。
お楽しみメニュー	令和5年度は感染予防の為実施できませんでしたが、その代替としておやつバイキングやセレクト食の回数を増やし、選択する機会をできる範囲で提供しました。
セレクト食	主菜の写真を見ながら食べたい物を選んで頂きました。主菜セレクト食は月に2回実施しています。
合同ランチ	令和5年度は感染予防の為実施できませんでした。
寿司の日	毎月1回実施。毎月の寿司の日は好評で皆様楽しみにされていました。
実演イベント	そばと握り寿司（寿司の日のうち11月と2月）の実演は感染予防のため中止しましたが、握り寿司は厨房で握ったものを提供しました。

(5) その他の活動報告

令和5年度は新型コロナウイルス感染症の影響で対外的な活動がほぼ中止としましたが、その中でも喫茶は回数を増やして実施しました。令和6年度はアフターコロナでのボランティアや地域での活動を考え、社会との繋がりを大切にして行きたいと思います。

美 容	美容師により月2～3回実施。カット・毛染め・パーマ等。
洋服販売会	衣替えの季節に合わせて洋服の訪問販売会を1階にて行いました。商品を実際に目で見て、手で触れて選んで購入されました。
買物代行	ダイエーの移動販売等にて職員が代行して菓子類や嗜好品、日用品の希望を伺いながら毎週購入しています。
出前食	月に1～2回、その月のお誕生日者を中心に3～4名参加し、寿司などお好きなメニューの出前を取り、召し上がって頂きました。
替わり入浴	季節行事の菖蒲湯・柚子湯、入浴剤を使用した森林の湯やラベンダー湯など季節に合わせた入浴を実施しています。
ひのき湯	日々の入浴とは別に、日曜日にデイサービスひのき浴槽で温泉気分を味わって頂きました。
喫茶	月に2回季節にちなんだお菓子や地方のお取り寄せのお菓子を提供しました。

サンドイッチランチ	月に1回サンドイッチと季節のフルーツを用意し、テラスや一階スペースで普段とは違う雰囲気です召し上がって頂きました。
-----------	---

(6) 特養各委員会の活動報告

ご利用者のより良い生活を支援していくために各委員会でさまざまな検討を行いました。

委員会名	活動内容
生活改善委員会	・排泄係・入浴係は、毎月の話し合いでご利用者一人ひとりに合った排泄のタイミングやパットの使用、入浴ケアの見直しを行いました。 ・食事係は、法人の栄養管理委員会に参加し、日頃のご利用者の意見や職員の感じたことを委員会時に報告しました。食事の回数や食事の形態などの見直しに加え、食事の席など環境面も定期的に見直し、フロア内でも話し合いをしました。
事故対策委員会	毎月事故とヒヤリハットの集計を行い、職員へ回覧と他部署へも情報共有を行いました。勉強会で実際に起きた事故を内容別に集計したものを活用し、事故原因の検証と対策についてまとめ、事故に対する職員のリスク管理の意識づけに努めました。
環境・感染委員会	新型コロナウイルス感染症に加え、季節性の感染症の予防にも努めました。勉強会の他に重要事項は動画や新たなマニュアルを作成し職員間で共有しました。
身体拘束委員会	柵、センサー等の使用状態の確認と適正な使用方法の見直しを定期的に行いました。身体拘束の考え方や知識について会議や勉強会で職員に伝えました。
医療行為安全対策委員会	個々の職員やフロア内で医療行為のマニュアルやリスクを十分理解出来るように多職種で連携を図り検討しました。知識を習得するため勉強会を開催しました。
医療カンファレンス	配置医井上先生と氷川薬局を含めた多職種でご利用者について話し合いを行いました。

(7) 特養クラブの活動報告

令和5年度は、デイサービスセンターにて合同開催していた陶芸クラブと絵画クラブは感染予防のため参加出来ませんでした。各フロアで季節を感じられるような日常の作品作りやオンラインで参加するレクリエーションを積極的に行い余暇活動の充実に努めました。

クラブ名	活動内容
文化クラブ	季節を感じられる作品（年賀状・書初め・鯉のぼり・クリスマス飾りなど）を作りました。作品はフロア内の食堂や廊下に掲示し他ご利用者が季節を感じられるよう工夫しました。 クラブ以外の余暇活動として折り紙・塗り絵・計算ドリル・音楽鑑賞などを準備し余暇時間に楽しんで頂きました。

健康音楽クラブ (音楽療法プログラム)	音楽療法士による活動は休止。日常的にカラオケ機やネット配信で昔懐かしい歌や四季折々の歌を再生し、音楽を楽しんで頂きました。
体操クラブ	日常生活動作の維持向上を目的とした活動を行いました。カラオケ機を使用した体操やリズムゲームで楽しみながら身体を動かすことが出来ました。
書道クラブ	季節に応じた題材のお手本を用意し、多くのご利用者に書道を楽しんで頂きました。完成した作品は食堂や居室に掲示しました。
生け花クラブ	今年度は活動休止。

(8) ケアカンファレンスの実施状況報告

月の第1週を除く各週水曜日に、原則サービス計画書更新前のご利用者を選出し開催しました。

- ・開催回数 23回
- ・対象利用者延人数 151人

(9) フロア会議実施報告

全体で行事・委員会などの報告を行い、各フロアでは事前設定した課題について話し合いを行いました。

- ・フロア会議 10回（原則月1回、5・11月は業務繁忙により実施なし）

3. 短期入所生活介護（ショートステイ）

(1) 令和5年度を振り返り

令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行後、施設でのクラスターが2度発生しましたが、ご家族やケアマネジャーに迅速に連絡をし、別フロアでの利用や日程変更など調整を行い、サービスを継続しました。その中でも出来る限りご家族のニーズに対応しました。

また新規利用者獲得が難しい中、緊急ショートの受け入れなどを柔軟に対応し新規利用者獲得に努めました。既存利用者へは追加利用や日程延長の提案を積極に行い、個々に合ったサービス内容を計画し、提供できるよう各職種の連携強化に努めました。

宿泊稼働率については、特養及びショートの全体宿泊稼働率の目標は99.0%でしたが、令和6年度の稼働率平均は97.4%で1.6%目標を達成することが出来ませんでした。令和6年度は空床ベッドの利用調整を速やかに行い稼働率向上に努めます。

項目	令和5年度月平均	令和4年度月平均
利用日数	304.2日	322.3日
内男性	59.3日	91.1日
内女性	227.4日	231.2日
新規利用者割合	9.8%	7.9%
既存利用者割合	90.2%	92.1%

(2) ショートステイの居室配置 (令和6年3月31日現在)

2人部屋/ 214【男女兼用】

個室/ 317【男女兼用】， 318【男女兼用】

合計 4床

4. 通所介護 (デイサービス)

(1) 令和5年度を振り返り

新型コロナウイルス感染症も5類になり、感染症対策の適正化を図ることでレクリエーション、外出、外食、ボランティアの受け入れ(生活・イベント)の再開と強化を行い、「ご利用者・ご家族の満足度の向上」、「通所の楽しみを実感することによる欠席率の低下」、「定着率の向上」に向けた以下の取り組みを実行しました。

①活動・イベントの充実

- ・高島平のサンドイッチ店の商品を持参しての、テラスや公園でのピクニックランチや商店街の和食料理屋での昼食など、外食を楽しんでいただきました。
- ・成増フェスタ(アクトホールで開催)や成増の隠れ家カフェ「Café&Gallery Pathina」に作品の出品や、デイサービスの食事の下膳や備品の片付けやメモ紙作り、チラシ折りなど、社会参加に繋がる活動も実施しました。
- ・都立高校の志村学園への訪問も再開。介護コミュニケーション学科のカリキュラムに参加し生徒の学びの実践の場として貢献できたと考えています。
- ・その他ネイルアートなど、数多くのイベントを開催しました。

②食の楽しみの提供

- ・ご利用者にアンケートをとり、献立に反映しました。献立会議を設置し、給食業者の栄養士に直接伝えることで、定番メニュー(5日と25日はカレー、9日はハンバーグ、11日は麺の日)や人気メニューの提供を分かり易くすることで、食事を目当てに利用してもらえるようになりました。

③入浴のイベントの強化

- ・毎月10日・20日・30日を「銭湯の日」とし、入浴剤やケロリンの風呂桶を使用しています。また毎月26日を「風呂の日」として瓶の牛乳、コーヒー牛乳、いちご牛乳、フルーツ牛乳等を無料で提供し、懐かしさを感じて頂いています。

④情報発信

- ・ご家族向けの「参観日」を開催しました。当デイサービスの利用時の様子を直接見ていただくことで、ご家族も安心されたり、当デイサービスセンターの方針も理解いただけたりと、有意義な会となりました。
- ・イベントポスターの掲示やアナウンスにより事前周知を強化することで、欠席率の低下につながったと考えます。

⑤感染対策の適正化

- ・マスク着用や消毒など必要な感染症対策は継続しつつ、テーブルの間引きやパーテーションを無くすことをご利用者様同士の距離が近くなり、会話が弾むようになりました。
- ・フロアのレイアウトを変更し活動スペースを確保することにより、時間に捉われずに複数の活動を同時に行いやすくなりました。

⑥職員のフォロー体制の強化

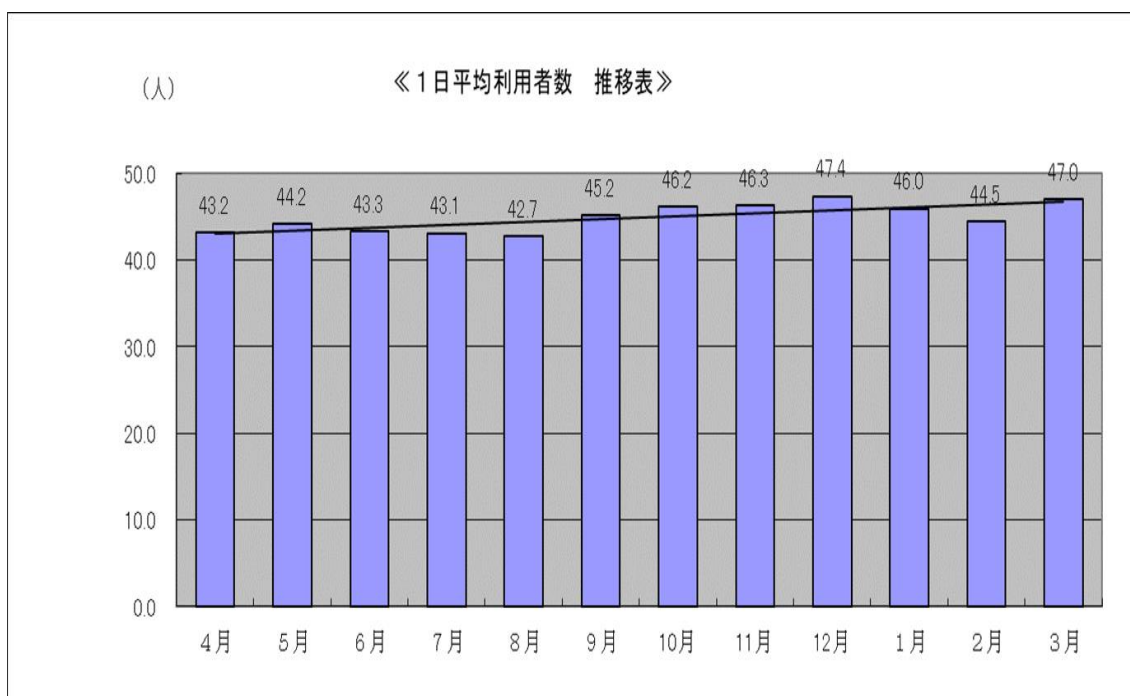
- ・他部署職員の運転や添乗業務のフォロー、同課の登録ヘルパーの空き時間にデイサービスの業務に入ってもらうことで、ご利用者の活動の充実を図りました。

(2) 利用者状況 実績

令和5年度においては、実人数244名（前年度比123.2%）、1日当たりの平均利用者数44.9人（同107.6%）と予算を達成しました。要因として新型コロナウイルス感染症の流行の落ち着きによる、欠席や利用控えの減少が上げられます。もう一つは圏域が重なる近隣のデイサービス・デイケア事業所の閉鎖です。ケアマネへのアピールも行い、利用意向のあるご利用者を積極的に受け入れました。他に特徴的な点は、要介護1～5のご利用者の5時間以上6時間未満の提供時間の割合が10.4%と、前年度と比べ6.1%増加した点です。短時間利用が増えた分、ご利用者の受け入れ人数で賄いました。また、当事業所の強みである利用制限のない入浴サービスも継続しており、ケアマネジャーへの認知が広まったと感じます。1日の入浴者数の平均が28.6人と前年度と比べ3.1人増加しました。

①月別ご利用者数

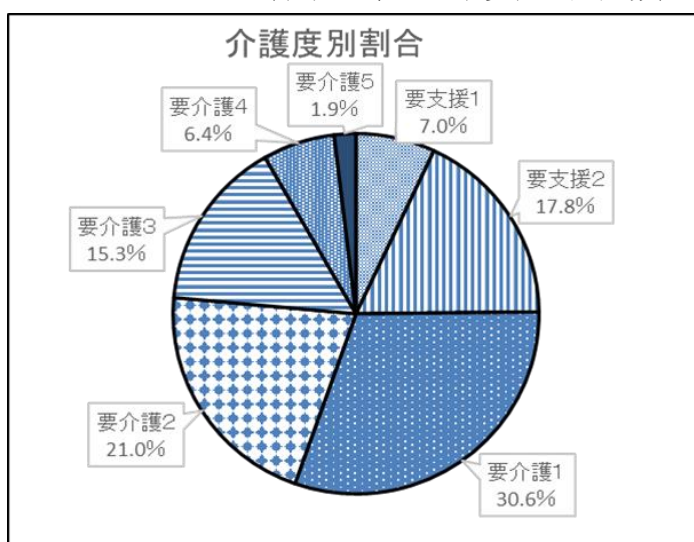
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
営業日数	25	27	26	26	27	26	26	26	24	24	25	26	308
実人数	143	149	145	149	141	144	148	158	157	152	151	157	244
延利用人数	1080	1193	1127	1121	1154	1175	1200	1204	1137	1103	1112	1223	13,829
延入浴人数	647	741	698	705	725	764	771	758	734	729	726	793	8,791
入浴割合(%)	59.9	62.1	61.9	62.9	62.8	65.0	64.3	63.0	64.6	66.1	65.3	64.8	63.6
一日平均 (利用人数)	43.2	44.2	43.3	43.1	42.7	45.2	46.2	46.3	47.4	46.0	44.5	47.0	44.9
一日平均 (入浴人数)	25.9	27.4	26.8	27.1	26.9	29.4	29.7	29.2	30.6	30.4	29.0	30.5	28.6



②要介護度別 ご利用者内訳

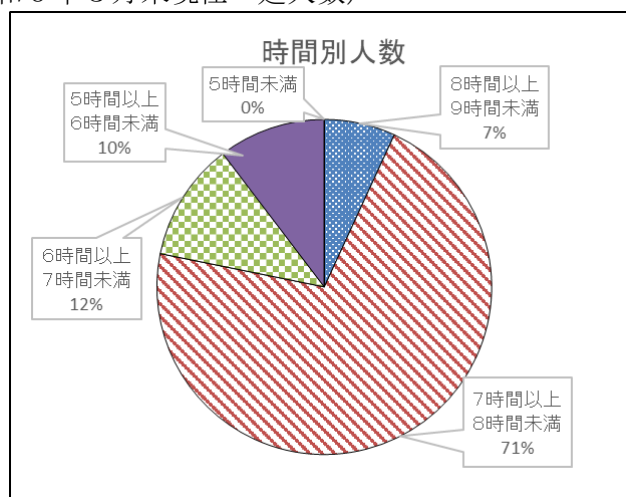
(令和6年3月末現在 実人数)

介護度	介護度別 実人数	割合 (%)
要支援1	11	7.0%
要支援2	28	17.8%
要介護1	48	30.6%
要介護2	33	21.0%
要介護3	24	15.3%
要介護4	10	6.4%
要介護5	3	1.9%
合計	157	100.0%
平均介護度	2.0	



③利用時間別 ご利用者内訳 (令和6年3月末現在 延人数)

提供時間	時間別 延人数	割合 (%)
8時間以上 9時間未満	69	6.9%
7時間以上 8時間未満	716	71.3%
6時間以上 7時間未満	115	11.5%
5時間以上 6時間未満	104	10.4%
5時間未満	0	0.0%
合計	1,004	100.0%



④年代・性別 ご利用者内訳 (令和6年3月末現在 実人数)

(歳)	男性	女性	計	割合 (%)		
				男性	女性	計
90~	12	47	59	7.6	29.9	37.6
85~89	8	40	48	5.1	25.5	30.6
80~84	11	22	33	7.0	14.0	21.0
75~79	3	7	10	1.9	4.5	6.4
70~74	1	3	4	0.6	1.9	2.5
65~69	1	1	2	0.6	0.6	1.3
~64	0	1	1	0.0	1	0.6
計	36	121	157	22.9	77.1	100.0

⑤ 地域別 ご利用者内訳（令和6年3月末現在 実人数）

地域	実人数	
	今年度	前年度
成 増	78	73
赤 塚	56	45
赤塚新町	10	9
大 門	1	0
徳 丸	1	1
三 園	2	4
高島平	3	5
四 葉	0	0
練馬区	0	1
和光市	6	4
合 計	157	142

5. 訪問介護（ホームヘルプ）

（1）令和5年度を振り返り

令和5年度の予算達成率は96.7%と目標を下回る結果となりました。新規利用者数は70名（前年度72名）と前年度と同程度でしたが、支援終了者数が65名（同43名）と大幅に増加しました。これまでの長期の入院などによる終了だけでなく、利用者本人やご家族の希望による施設入居による支援終了が増えてきています。施設入居を希望されてから実際に入居されるまでの期間が短い傾向が続いています。

新型コロナウイルス感染症の対応としては令和5年5月に感染症法上の位置づけが5類に変更され、感染者の待機期間やマスク着用などの対策が緩和されましたが事業所としては支援中のマスクの着用や換気の実施など基本的な対策は継続しました。

令和5年度は「①業務改善・効率化の推進」「②ヘルパーの働きやすい環境の整備」を重点目標として達成に向け事業活動を行いました。各重点目標の活動内容、評価は以下の通りです。

① 業務改善・効率化の推進

【活動内容・評価】

令和5年度は同課のデイサービスとの協力体制を更に進め、お互いの業務改善を目指しました。登録ヘルパーの空き時間をデイサービスでの多様な業務において活用するなど、両サービスでの人材の有効活用を更に進めました。今後も業務改善・残業削減を目的とした取り組みを協力して続けていきます。

部署内の取り組みとしては記録・報告ツールとして使用しているラインワークスの機能を活用し手順書や記録の書式を統一することで入力作業を簡素化し作成の時間を削減することができました。

令和5年4月より運用が開始された「ケアプランデータ連携システム」もいち早く導入し、外部の居宅支援事業所や地域包括支援センターとの請求に関する情報のやり

取りを電子データで行うことにより業務の簡素化や負担軽減を行うことができているがシステムを利用する事業所が少なく効果が限定的になっています。

② ヘルパーの働きやすい環境の整備

【活動内容・評価】

登録ヘルパーに対し「記録の書き方」「登録ヘルパーができること・できないこと」についての研修を行い知識の充実を図りました。記録の書き方では、短く・伝わりやすい文章を書くポイントを伝え、記録業務の負担軽減につなげました。登録ヘルパーができること・できないことの研修では具体例を出しながら自立支援の重要性を伝え、ご利用者にとって必要な支援とはどのようなものなのか理解を深めてもらいました。今後はOJTの組織図に基づいた個別研修を行うなど内容を充実させていきます。

利用者支援においてヘルパーを固定せず複数人で担当する体制を整え、ヘルパーの働きやすい環境を作ることができました。

(2) ヘルパーステーション活動状況

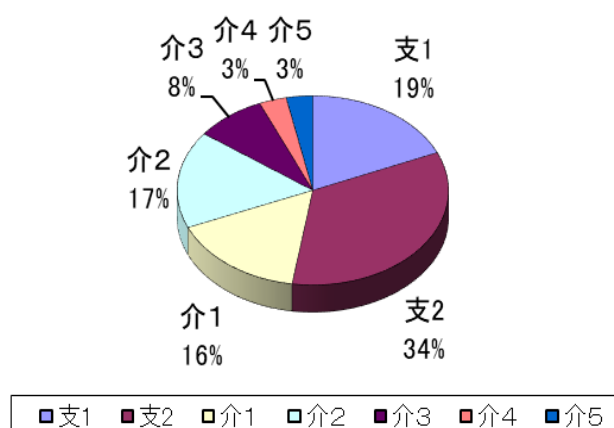
	令和5年度	令和4年度
利用者実人数	257名	258名
派遣延回数	16,431回	17,513回
派遣延時間数	14,533時間	15,200時間

(3) 月別ヘルパー活動状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	148	151	142	140	141	134	138	136	127	120	127	135	1,639
回数	1,485	1,520	1,429	1,403	1,410	1,342	1,382	1,360	1,274	1,196	1,271	1,359	16,431
時間	1,301	1,352	1,283	1,242	1,263	1,199	1,223	1,188	1,124	1,058	1,099	1,196	14,533

(4) 要介護度別活動状況内訳 (利用者数)

	令和5年度	令和4年度
支1	299	363
支2	597	668
介1	345	317
介2	301	327
介3	167	165
介4	52	64
介5	73	62
計	1834	1966



(5) 活動内容内訳

		令和5年度		令和4年度	
		件数	割合	件数	割合
要介護	身体介護 ※複合含む	5,588	34%	6,572	38%
	生活援助	5,326	32%	4,368	25%
要支援	訪問サービス	4,689	28%	5,731	33%
保険外		828	5%	657	5%
合計		16,431	100%	17,774	100%

(6) 部内研修

研修日	研修内容	参加人数
令和5年4月	利用者支援についてのグループワーク	4名
令和5年7月	記録の書き方	21名
令和5年12月	記録の書き方 フォローアップ研修	13名
令和6年3月	ヘルパーのできること・できないこと	21名

6. 居宅介護支援事業

(1) 令和5年度を振り返り

特定事業所加算（Ⅱ）の算定事業所として地域で質の高いケアマネジメント提供のため体制を整備し、積極的な新規ケースの受け入れを行い、事業所全体で適正件数維持に努めました。

(2) 事業計画実施状況

① 適正件数の維持と法人内での連携強化

月別新規居宅サービス計画届け出件数は（表1参照）の通りです。4月より包括支援センターと兼務で職員が0.5人換算で増え、新規ケースの受け入れが増えていますが、6月からは、1名退職したことにより受け入れ件数が減少しました。昨年と同様に施設入所や入院により終了ケースが多く、10月からは新規ケースの受け入れ件数を増やし適正担当件数維持に努めました。

利用者特定事業所集中減算の当事業所利用率（表2参照）訪問介護53%、通所介護62%、短期入所介護67%となっています。通所介護、短期入所生活介護ともに利用率がほぼ昨年同様です。訪問介護はケアプランに位置付ける全体件数が減少傾向です。地域で定期巡回・随時対応型訪問介護を提供する事業者が増えたことが要因と考えられます。今後も、法人内に訪問介護、通所介護、短期入所生活介護が併設している強みを活かし、各サービスとの連携を強化していきます。

加算項目別件数（表3参照）については、退院時連携加算が昨年度より増加しています。コロナ禍で減少していた病院でのカンファレンスが開催され、医療連携の機会が増えています。

② 質の高いケアマネジメントの提供

各職員が研修計画を作成し外部研修に参加しました。研修参加後は、週1回の定例会議で、研修に参加した職員から伝達研修を行い事業所全体でのスキルアップが図れるように取り組みました。

参加研修

4月	個人情報保護法改正について	10月	家族ニーズへの対応方法
5月	高齢者のアルコール依存症	11月	虐待防止スキルアップ研修
6月	高齢者虐待防止セミナー	12月	事例から学ぶ事故対策
7月	精神障害の理解	1月	A I ・ I C T の活用について
8月	福祉用具	2月	がんと低栄養
9月	認知症のリハビリ	3月	介護保険制度改正

適切なケアマネジメント手法の勉強会を年6回開催

③ 業務の効率化

ケアプランデータ連携システムを令和5年4月より利用を開始しました。給付管理業務の効率化が期待されましたが、利用するサービス事業所が少なく、事務作業の大幅な削減はできませんでした。近隣居宅支援事業所とのICTを活用した事例検討会を年3回開催しました。

④ 地域との連携強化

主任ケアマネジャー3名が赤塚地区居宅ケアマネジャー連絡会に参加し、地域のケアマネジャーのスキルアップのための勉強会に、包括支援センターとの協働事業として参画しました。

地域で開催している認知症カフェに参加し、認知症、在宅介護のことなど相談を受け地域での活動を行っています。

⑤ 人材育成とチームとして働く快適な環境づくり

支援困難ケースについては、週1回の事業所内会議や朝のミーティングで相談を行い、主任ケアマネジャーが中心となり事業所全体で検討し、一人で抱え込むことがないように努めました。令和6年度は主任ケアマネジャーが4名在籍している強みをいかし、支援困難ケースは同行訪問を行うなど事業所全体での支援に努めます。

⑥ 感染症・災害発生時にも対応できる体制づくり

アセスメント時に災害発生時の支援の必要性の記載を行っています。ケースファイルには災害発生時に支援の必要性の高いケースが迅速に把握できるように事業所内でファイリング方法を統一しました。感染症発生時は医療機関やサービス事業所と必要な支援が継続できるように連携し対応しました。

月別新規居宅サービス計画届出件数（表1）

単位：（人）

性別/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	7	3	1	1	0	0	3	1	3	5	0	1	25
女性	3	3	2	3	4	6	5	5	2	5	3	4	45
合計	10	6	3	4	4	6	8	6	5	10	3	5	70

特定事業所集中減算による当事業所の利用率（表2） 単位：（件）

	全体件数	ケアタウン成増	当事業所の利用率%
訪問介護	47	25	53%
通所介護	71	44	62%
短期入所生活介護	21	14	67%

加算項目別件数（表3）

単位：（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院加算Ⅰ・Ⅱ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退院・退所加算	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3	1
初回加算	9	6	3	4	4	6	8	6	5	10	2	5
事業所加算Ⅱ	150	158	152	152	143	147	148	152	153	162	158	156
通院時情報連携	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0

7. 成増地域包括支援センター

（1）令和5年度を振り返り

当センター担当地域は、成増1丁目～4丁目、赤塚3、4丁目、赤塚5丁目の18番～36番となっています。

板橋区の高齢者数は131,610人（令和5年10月現在）、高齢化率23.0%であり、当センターの高齢者数合計6,876人（65～74歳3,101人、75歳以上3,775人）、高齢化率は18.7%となっています。高齢者人口のうち介護保険の認定を受けている方が1,350人でそのうち在宅でサービスを利用している方が633人となっています。

地域包括支援センターの主な機能として、①介護予防マネジメント、②総合的な相談支援、③包括的・継続的ケアマネジメント、④虐待防止・早期発見等の権利擁護があります。当センターでは、社会福祉士、地域保健等の経験をもつ看護師、主任ケアマネジャー、ケアマネジャーなど、9名体制（1名居宅介護支援事業所兼任、1名休職中、令和6年3月末時点）で業務を行っています。

介護予防支援事業については、要支援認定を受けた方へのケアプラン作成やサービス調整を行っています。令和5年度の給付担当件数は昨年度と比べほぼ横這いとなっています。

総合相談については、介護保険サービス利用に関する相談多く、また、がん終末期など医療ニーズの高い相談も多くなっています。

また、本来支援が必要な状況ではあるが本人がサービスの利用を望まないケース、生活困窮者の生計困難ケース、緊急対応が必要なケース、精神医療の介入を必要とするケースなど、関係機関や地域の方の協力を必要とするケースが多い状況です。本人、家族を含め多岐にわたる問題を抱えたケースが多くなり、これまで以上に、医療と介護、その他の機関との連携が必要な状況となっています。認知症関連では、認知症サポーター養成講座を小学校総合学習と、成増図書館と協働し認知症イベントの中で実施しました。引き続き、認知症の方や家族への支援を行っています。

「支え合い会議成増」は月に1回の定例会議を引き続き行い、「杏の会」、「スマホ相談会」、「チームオレンジミニ劇団成増」、地域の居場所「ほこりなりりん」など、4つの活動を行っています。また、情報発信については、ホームページ

のブログや公式LINEアカウント、町会・自治会の掲示板の3本柱で行っています。さらに、支え合い会議成増主催のシニア向けイベントや、地域のイベントである「板橋農業まつり」と「成増地域センター祭り」への参加など、活動の幅を広げています。

新型コロナウイルス感染症5類変更後は、地域包括支援センターで行っている各事業については会場開催となりました。また、成増・下赤塚・徳丸地区医療介護連携会議や赤塚第2中学校の第9学年への認知症サポーター養成講座、以前行っていた認知症カフェの再開を果たすことができました。

今後も地域包括ケア構築を目指し、様々な機関や地域と連携し、高齢者が安心して住み続けられる地域となるよう努めます。

(2) 相談件数実績

令和5年度の訪問による相談者（※以下の数字延べ人数）が1,802名、来所が301件、電話が5,750件となっています。

相談は来所、訪問共に増加しています。

相談内容では、昨年に引き続き介護サービス関連についての相談が最も多くなっています。続いては医療関連、生活・家庭相談、介護保険要介護認定相談の順となっています。全体的に内容は多岐に亘っており、今後も相談件数の増加が想定されます。

(3) 総合相談

地域高齢者の生活に関わるあらゆる相談に応じています。介護保険制度（申請からサービス調整含む）、介護予防・日常生活支援総合事業についての相談が多く、関連して医療・保健相談が続いています。障がいや難病をお持ちの方、経済的な支援を必要としているケースなどは、その他の制度の活用や各関係機関へのご案内・調整等を行い、安定した生活が行えるよう支援しています。

経済的な問題やキーパーソンが不在の独居高齢者の相談なども増えており、地域の民生児童委員や各関係機関と連携しながら対応を行っていますが、支援調整が長期化するケースも多くなっています。問題が複雑化しているケースについては、センター内で方針を検討しながら、支援にあたっています。

平成28年10月より、窓口相談やサロン訪問時などに、希望者に「見守りキーホルダー」をお渡ししています。また、相談支援時に必要性が高い方と判断される方には、積極的に登録を勧めています。令和6年3月末までで884名が登録しており、内、令和5年度は127名の新規登録となりました。地域住民からの身元不明等高齢者の問い合わせ対応の他、保護・身元不明に関する警察・病院からの問い合わせ時等に、見守りキーホルダーの番号で身元の照合を行い、必要に応じて、緊急連絡先へ連絡を行っています。

(4) 虐待相談

令和5年度、4件の相談がありました。内2件は、虐待者が同居家族で虐待内容は身体的虐待、他、虐待者が同居家族で身体・心理的虐待が1件、同じく虐待者が同居家族で放任・心理的虐待が1件ありました。

いずれのケースもケアマネジャーや病院関係者、区の担当部署、ご親族と連携をとりながら見守りや緊急対応、介護保険サービスの調整など必要な支援を行いました。現在も引き続き関係機関や支援者と連携をとりながら、調整・支援を進めています。

(5) 板橋区苦情・相談事業

令和5年度、介護保険苦情・相談記録報告書による要望・クレームの報告は0件でした。担当地区の居宅介護支援事業所やサービス事業所に対する要望や事業所変更等のご相談は引き続きあがっています。ケアマネジャーやサービス事業所とご利用者・ご家族の両者の意見を聴取して、調整を行っています。

(6) 介護予防・日常生活支援総合事業及び予防給付管理について

板橋区が開催する令和5年度元気力測定会は前期、後期ともに募集定員は新型コロナ流行前の水準に戻し実施されました。成増地域は9名が事業対象者となり、その他、窓口や小集団で100件以上の基本チェックリストを実施しています。令和4年度から始めた小集団に向けての基本チェックリストを含む測定会や出前講座は今年も10か所実施しました。

予防給付管理に関しては、前年と比べるとほぼ横這いで推移しています。

地域の運動指導を行っている整骨院やデイサービス、訪問看護事業所、デイケアサービス事業所の職員によるリハビリ動画は継続しており、公式LINEアカウント等にて2カ月に1回程度配信しています。

【総合事業・介護予防サービス利用者給付件数】 (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防支援	137	141	142	141	138	136	144	137	136	135	127	128	1642
介護予防ケアマネジメントA	108	104	104	105	105	102	96	101	99	104	103	101	1232
〃 B	1	2	2	2	2	5	6	7	5	6	5	2	45
〃 C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

(令和6年3月末現在)

※介護予防ケアマネジメントとは総合事業訪問型サービス・通所型サービスのみを対象としたプランとなります。

(7) ケアマネジメント支援

ケアマネジャーからの日常的な個別相談や関連機関との連携に関わる相談を行っています。相談内容としては、以下に記載する内容でケアマネジャー支援を行っています。ご利用者との信頼関係が作れず、ケアマネジャー交代等の相談で新たなケアマネジャーを紹介しました。また、介護が必要な方が複数人いる家庭で、介護者の体調不良や介護力不足などから要介護者への支援が滞りるケースでは、状況確認や今後の支援の進め方などについてケアマネジャーへの支援を行いました。さらに、被害妄想が強いご利用者について、今後の対応や民生児童委員等の関係機関との調整や、認知症の周辺症状で近隣住民より相談連絡が多くあったご利用者についても情報共有や助言を行い、ご利用者を入院につなげることができました。ケアマネジャー支援の内容は多岐にわたり、区に報告書を上げたケースは15件ありました。

地域のケアマネジャーとの顔の見える関係作りの場であるケアマネルームは、ケアマネジャーからの要望もあり三園地域包括支援センターと合同で1回開催しました。内容としては、ICTの活用に関する情報提供とその活用方法について行っています。また、ケアマネジメントの質の向上の一環として成増・三園地域包括合同にて事例検討会を2回開催しました。

(8) 地区ネットワーク会議

地域で高齢者等を支援する機関のネットワークを強化するため、成増地区(成増・三園)として開催しています。令和5年度は「地域を盛り上げていこう～地域の活動と支え合い会議成増の協力体制強化のために」という事をテーマに地区ネッ

トワーク委員のほか、町会長やシニアクラブ会長等も参加いただき、地域づくりに関する意見交換を行いました。

(9) 板橋区相談協力員連絡会・民生児童委員の皆様との連携について

民生児童委員、相談協力員薬局、相談協力員接骨院の方々を対象として、地域のネットワーク強化および知識向上を目的に年1回程度、連絡会を開催しています。

令和5年度も例年どおり三園地域包括支援センターと合同で相談協力員連絡会を行いました。

テーマは「地域の見守りネットワーク～安心して生活できる地域を目指して～」と題し、第一部では、板橋区の見守り事業の説明及び見守り協定締結団体より取り組みの紹介を行いました。また、第二部では、地域内での連携強化を図るために、地域のケアマネジャーを交えて、グループワークを行いました。

また、令和3年度より始まった「民生児童委員と地域包括支援センターの情報交換会」を令和5年度も引き続き開催しました。地域の高齢者の方の情報を共有することで、支援が必要な方の早期発見とその支援を行うことができたこと他に地域情報の共有や見守り訪問時のポイントなどを相互で確認することができました。

(10) サービス事業者交流会

令和5年度事業者交流会は、地域のケアマネジャーを対象に対面形式での勉強会を赤塚地区の地域包括支援センター（成増・三園・下赤塚・徳丸）と赤塚地区居宅介護支援事業所の主任ケアマネジャーとの合同で1回開催しました。

「ケアマネジャーと警察との連携について」をテーマに開催しました。ケアマネジャーと警察との顔の見える関係作りの一つとしてグループワークや質疑応答を通じてお互いの状況を理解し合い、気軽に相談できる窓口の情報提供があり、地域のケアマネジャーと警察とのパイプをつくることができました。

(11) 板橋区小地域ケア会議

高齢者個人に対する支援の充実とともに、それを支える基盤の整備を行う有効な手段として「板橋区小地域ケア会議」を開催しました。

「認知症があり、お金の管理と生活支援が必要なキーパーソン不在の方への支援について」をテーマに開催しました。会議では多くの介護・医療関係者の方にご参加いただくことができました。

認知症の方が地域で暮らし続ける為の相談窓口や連携方法、協力体制など、参加者や地域の方々と共有することができました。

(12) 認知症の方・家族支援

平成21年6月に発足した「認知症の方を介護する家族会 きずな」は、令和5年度は毎月開催しています。新規参加者は12名。介護予防グループの方の参加もあり、参加者が10名以上の月が多くなりました。家族会の参加者の多くが高齢になり運営側の負担がありましたが、運営の支援や助言を行い、令和5年12月から新リーダーに交代となりました。参加者からは「どうしてよいかわからなかったことを皆様の意見が聞けて良かった」「苦しい気持ちを話すことができて良かった」等、のお話がありました。

当施設のロビーにて開催していた認知症カフェは、感染症予防対策で休止中でしたが、令和5年1月から当法人の在宅系サービス部門と協力し再開しています。

今後も、認知症の方が住み慣れた地域生活が継続できるように、認知症の方やその家族の支援を継続していきます。

(13) 認知症早期発見

成増地域センター・成増3丁目集会所を会場に、認知症の早期発見を目的として「もの忘れ相談医」による認知症に関する個別相談を行っています。1回あたり1名～2名で、計3回実施されています。また、他の地域包括支援センター担当のもの忘れ相談でフォローの必要な方のご相談を行い必要な支援を行っています。

認知症初期集中支援事業として、認知症サポート医と地域包括支援センターの福祉職、看護職がチーム員となり認知症の方とその家族の支援について検討会議を行い、令和5年度から新たに高島平警察の方にも参加いただきました。令和5度は継続ケース3件、新規ケース5件の検討を行い、うち4件の訪問を行い、介護保険サービス、認知症専門病院や訪問診療に繋げています。

また新規ケース2件については、そのケースにかかわる担当ケアマネジャー、生活保護の担当ケースワーカーに参加いただき、支援の方向性を検討しました。今後も本事業の活用とともに、地域住民やケアマネジャーの協力を得て、認知症の方に必要な医療や支援を届けたいと思います。

(14) 認知症の知識の普及

認知症の知識の普及として「認知症サポーター養成講座」を計3回開催しました。成増図書館と合同開催したイベントで参加者13名、対面式で成増小学校第4学年(90名)、赤塚第二中学校第9学年(154名)に対して行いました。養成講座の内容としては、認知症とともに生きる人の対応について「寸劇」を実施して、参加者に認知症のことについて一緒に考えていただける工夫をしています。

成増小学校の講座では認知症のみでなく、高齢者が元気に暮らすために行っていることや実際に高齢者の方の話や生徒から高齢者の方への質疑応答を行いお互いの視点で会話することができました。

赤塚第二中学校の講座では認知症の方の展示を行い、認知症の方が地域で暮らし続けるためにはどんな声かけや対応が良いのか考える機会を作りました。

今後も認知症の症状や特性の周知だけでなく、認知症とともに生きる人が希望を持って暮らしている様子や、認知症の進行を遅らせるための日々の活動(認知症予防)についても知っていただけるよう地域の皆さんへの啓蒙活動を行っていきます。

(15) 医療・介護連携会議

地域の病院の相談員や医療施設の相談員、地域包括支援センター職員とが、医療介護の連携が円滑に行えるよう医療・介護相談員交流会を対面式にて行いました。昨年はオンラインで実施しましたが、今回は顔を合わせることで、相談窓口としての連携を深めることができました。

また、地域の病院・クリニック・歯科医院・薬局・居宅介護支援事業所・行政機関やその他の医療相談窓口が集まった「医療・介護連携会議」を今回は徳丸地域を含め、4年ぶりに開催しました。100名を超える専門職に参加いただき、「成年後見制度についての課題と対策」と題してグループワークを行い、交流・意見交換を行うことができました。

(16) 成増助け合い・支え合いの地域づくり会議

平成28年度成増地区で勉強会を行い、その後「支え合い会議成増」が立ち上がりました。毎月1回地域の集会所等をお借りし、会議を継続しています。

新型コロナウイルス感染症5類へ変更後は対面での会議を実施。打合せ等では会議ZOOM等のソフトを引き続き活用しています。地域への情報発信はホームページのブログ、公式LINEアカウント、町会・自治会の掲示板の3本柱で行っています。それ以外にも近隣の公共機関や郵便局、企業団体に配布・設置依頼を継続しています。LINEアカウントの登録者は150人を超え、若い世代とのつながりだけでなく、地域で活躍する方や企業担当者と個別につながりコミュニケーション

をとることで新たな活動創出のきっかけや迅速な情報共有につながっています。令和5年度の変更点として広報物は「なりりんニュースレター」の定期配布を中止し、年4回「活動のお知らせ」を作成しています。

成増の情報マップは、令和5年4月から再編した居場所編を地域に配布。現在も継続配布中です。今後マップ作成はより地域に密着したものをとの意見が多く新たな作成は一旦休止。会議で話し合い、今後の方針を決めていくこととなりました。支え合い会議では4つの定期活動を行っています。

1つ目は「杏の会」です。季節の折り紙を作る「杏の会」は運営側が5名、参加者も1回10～15名ほどとなり月1回安定して行うことができます。地域に飾られている「杏の会」の折り紙がきっかけで令和5年から成増幼稚園とのつながりが生まれました。年4回程度園内の掲示板を彩っています。

2つ目は「スマホ相談会」。令和4年9月に始まった相談会は月1回定期開催を続けることができます。協力者はこの1年でスマートフォン販売店のテルル成増店のスタッフ、いたばしボランティアセンターが育成しているデジボラ、その他企業や介護事業所スタッフ等と増えていて、開催場所は、長太郎不動産の物件を継続してお借りしています。

3つ目の「チームオレンジミニ劇団なります」は月1回認地笑かるた内容を動画にする活動を続けていて、地域の学校で行われた認知症サポーター養成講座では寸劇を披露しています。認知症をよりわかりやすく学生に伝えています。

4つ目の「ほっこりなりりん」は令和5年4月から本格的に開催しています。誰もが気軽に立ち寄れる居場所づくりを目標に、月1回第4金曜日定期開催しています。喫茶店の一角をお借りして、参加された方がご自身の知り合いを連れてきたりと、少しずつですが地域の居場所へと成長しています。

支え合い会議成増主催のシニア向けイベントは、介護予防をテーマにした「元気になるフェスタ2023」を5月に、認知症をテーマにした「認知症、やさしい街では認地笑2023」を9月にそれぞれ開催し、5月は200名、9月は150名ほどの来場があり、継続開催を望む声が多く聞かれたため毎年開催する方向で年間計画を立てています。そのほか地域で開催されるイベントも新型コロナウイルス感染症が5類に変更されてから再開され、板橋農業まつりと成増地域センター祭りに参加しました。令和6年度は前年度参加のイベントに加え、まなぼーと成増フェスタと成増幼稚園作品展への参加が予定されています。

■ 広報活動

	開催日	内容
活動のお知らせ (月間)	毎月1回	毎月1日～15日まで町会・自治会の掲示板に掲示
活動のお知らせ (3か月分)	3か月に 1回	3か月に1回地域の設置場所へ配布依頼し、カウンター等への設置
なりりん ニュースレター	不定期	イベントに開催後など活動報告時に作成
公式LINEの 配信	毎月4～ 5回更新	イベントの告知やシニアクラブ、サロン等が開催する勉強会等の告知
ブログ	公式LINEに合 わせて	同上

■地域活動

	開催日	内容
杏の会	毎月1回	成増図書館等地域の掲示板を彩る季節の折り紙を作成
スマホ相談会	毎月1回	スマホ基本操作の質問を受け付け
チームオレンジミニ劇団なります	毎月1回	いたばし認地笑かるたの内容を動画にして配信
ほっこりなりりん	毎月1回	誰もが気軽に立ち寄り、おしゃべりできる場を開催

■年間イベント ★支え合い会議成増主催のイベント

	開催日	内容
★元気になりますフェスタ	5月	介護予防をテーマに開催
★認知症やさしい街では認地笑	9月	世界アルツハイマー月間に合わせて認地笑かるたの展示や普及啓発の講座を企画。2日間開催。
板橋農業まつり	11月	保護司団体と協同で赤塚地区支え合い会議の普及啓発
成増地域センターまつり	12月	PRコーナーにて支え合い会議に関するアンケートや活動報告等の資料配布

(17) 支援センターだより

赤塚地区地域包括支援センターでは年3回、支援センターだよりを発行しています。地域住民の方々へ配布する他、地域の回覧板を活用して、支援センター区域内にある町会に回覧をしています。

年間発行回数	発行月	内容
3回	9月(秋)	フレイルってなに？
	12月(冬)	ご存知ですか？見守りキーホルダー
	3月(春)	地震に対する10の備え